



海で知る。海を知る。  
新しい学びの形を江田島で。

江田島市の特色ある教育

## さとうみ学習の推進

江田島市では、郷土への愛着・誇りを持った児童生徒「さとうみっ子」の育成を目指して、市内の全小中学校において、特色のある教育「さとうみ学習」を開発・実践していきます。そして、その成果を共有することで、より一層の教育活動の充実を目指します。

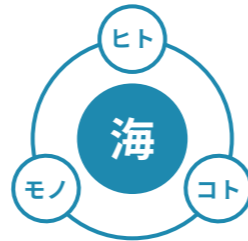
### 鳥っ子の特権を教育に。

江田島には、海に関わる営みが多く、それらは豊かな教育資源となる可能性を持っています。児童生徒がこの町で育ったからこそ受けられた学びがあることを誇りに思えるような、新しい教育の形を作り上げるために、さとうみ学習の実践を行います。

### さとうみ学習とは

さとうみ学習  
**定義**  
育てたい  
**人物像**

海に関連するヒト・モノ・コトを  
資源とした学習活動・体験活動  
「さとうみっ子」  
未来の里海・故郷を生み出せる人



### 児童生徒の発達段階をふまえた 学習ステップの設定

さとうみ学習の展開にあたり、それぞれの学年の発達段階をふまえた、学習内容の取扱いに関するステップを設定します。児童生徒が自分なりの里海に関する視点を培うために、まず海に「触れる」段階をスタートとし、「知る」「探る」というプロセスを経て、最終的には里海から得た学びの成果を「表現する」ことをさとうみ学習の最終目標として設定します。

STEP 01 **触れる**

海が好きで、自分から関心を持って行動するようになるために、まずは直接触れることによる五感を使った体験知を増やす。簡単な遊びを中心とした活動を行う段階。

STEP 02 **知る**

海を有識者や文献から学ぶとともに、自分で情報を収集し、里海について広く知る。基礎となる知識をつけることで、自分の興味関心がどこにあるかを知る段階。

STEP 03 **探る**

海についての基礎知識がつくことで、掘り下げたいと思うテーマが見つかっていることを前提に、自分なりの視点で、主体的に研究活動を行う段階。

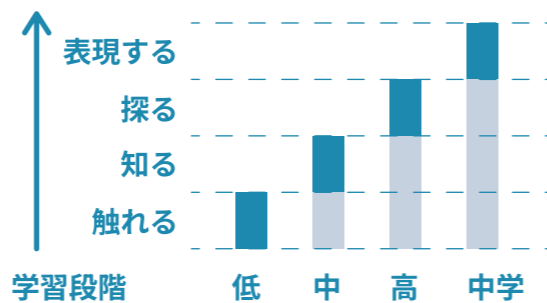
STEP 04 **表現する**

独自の視点で研究した内容を踏まえ、他者に魅力や実態を伝える段階。自分の特技や個性を活かし、既存の表現方法に囚われない表現活動を行っていく。

児童生徒の発達段階によって、さとうみ学習の段階は少しずつ高度になっていくよう、学習設計を行っていきます。中でも、特に重要な点は、児童生徒が「海が好きである」状態になっていることを目指すことです。

この学習のステップでは、児童生徒が主体的に学び、自らの特技や個性を活かして表現することを最終目標としているため、学習活動に対する意欲を持続することが必須であると考えます。そのためにも、学年問わず、海に「触れる」ことを通じ、好奇心を高めることを大切にしながら学習を展開していきましょう。

### さとうみ学習のステップ



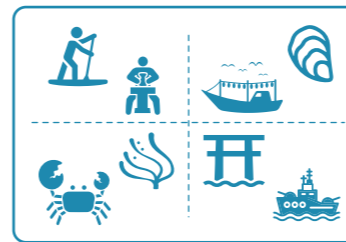
### すべての学校で共通に取り組む さとうみ学習の学年別展開イメージ

江田島市教育委員会  
令和6年2月1日



### 里海素材 × 各教科

里海を教育素材として積極的に扱い、各教科の内容と組み合わせて展開していく。教科ごとの特徴を里海の素材と掛け合わせることで、地域での実態や日常生活と結びつけた教科での学習となることを意識する。例えば、社会で江田島の海に関する歴史や産業を扱ったり、図工で海ゴミを活用した工作を行うなどが考えられる。



国語 社会 体育 音楽 理科  
図工 算数 数学 美術  
道徳 家庭科 外国語

### 学校独自の学習活動・体験

各学校によって、学校周辺の地域特性は大きく違う。各学校の里海環境を生かした独自の学習活動や体験活動を、特別活動や行事等の時間を活用し展開していく。

- 〇〇小学校
  - 牡蠣養殖
  - 水産漁業体験
- 〇〇小学校
  - 里海釉薬の陶芸
  - 海由来の寺社仏閣
- 〇〇中学校
  - アマモの生態調査
  - 海上自衛隊の歴史

### 各学校へのお願い

「さとうみ学習」の取組の共有及び情報発信に向け、以下の実践等の蓄積をお願いします。  
(ア)生活科及び総合的な学習の時間における実践事例(各校1事例程度)  
(イ)各教科及び特別活動における実践事例(各校1事例程度)  
様式等については、改めて詳細を連絡しますので、ご協力をお願いします。

### 教育委員会の取組について

- 「さとうみ学習」コーディネーターの配置による支援
  - (ア)各学校が独自のカリキュラムを開発・実践し、その成果をとりまとめるために必要な支援(オンライン相談、学校訪問による助言・支援等)
  - (イ)各学校のニーズに対応した地域人材や地域資源の発掘・紹介
  - (ウ)各学校の取組の推進、質の向上を目指した校内研修等への参加による支援
  - (エ)各学校および地域に対する「さとうみ学習」の共有  
(各学校の効果的な取組を実践事例として冊子にとりまとめる、ホームページ、SNS等を活用して各学校の実践・成果の共有を行う等)
  - (オ)各学校が独自に国や民間財団等の研究助成金を確保することへの支援  
(例:公益財団法人笹川平和財団主催 海洋教育パイオニアスクールプログラムにおける地域展開部門等)
- 「さとうみ学習」におけるマリンアクティビティ体験に係る費用の確保  
各学校におけるマリンアクティビティ体験費用(1学年分の人数×2,500円)を「ふるさと実感事業費」に加算して配分予定
- 市内小中学校の取組交流会の実施  
取組交流会では、児童・生徒の創作物展示や出し物等の出店、プレゼンテーション発表に加えて、専門人材による講演・パネルディスカッションや他地域の学校や地域人材との交流等を計画  
追記)現在、日本財団の「海洋教育パイオニアスクール地域展開部門」に申請中